

不撓不屈

発行 釜石市立唐丹中学校

第31号

唐丹町字小白浜314

電話 0193-55-2106

文責 校長 八木稔和



学校教育目標 誠実・健康・努力



震災を語り継ぐ会

3月9日(木)、「震災を語り継ぐ会」を行いました。2日後に東日本大震災から12年を迎えるこの日、講師としてお招きしたのは小白浜町内会長の佐々木啓二さんと学用品などでお世話になっている小野文商店の小野悦子さんのお二人です。震災の時の唐丹湾の津波の様子や避難した時の状況、避難生活のことなどを実際の経験に基づく説得力のある言葉でお話ししていただきました。



災害時に必要なものや行動を知ることができました。自分の命を自分で守ることの大切さを詳しく知ることができました。災害があった時には教えてもらったことを思い出しながら行動していきたいと思います。

青山 準佑

小野さんが出会った3回の津波はどれも違う形で起きたということを知って驚きました。自分の中で「ここまでくれば大丈夫」と思い込まないでとにかく上に逃げるのが大切だと思いました。

岩澤 優真

第1波、第2波を実際に見たことを教えてもらい、どのように津波が来たのかを知ることができました。そして佐々木さんは周りの人のためにたくさんの行動を起こしていてすごいなと思いました。今日聞いたことを忘れずに生きていきたいです。

川原 悠翔

佐々木さんの話を聞き終わって頭の中に浮かんだ言葉が「助け合い」でした。町の人とお互いに助け合うことで生きていくことができるのだと改めて思いました。まずは、自分の命を守ることを考え、佐々木さんのように助けを求める人に手を貸してあげられるような人になりたいと思いました。

高橋 愛里

改めて津波の恐ろしさを感じました。当時の私は幼かったため、記憶がないため当時のことを知りませんが、避難するときは上に逃げることを1番に考えたいと思いました。

留畑 史花

家族で避難場所を確認しておく大切さや地域の人に声をかける大切さを学ぶことができました。私は家族との確認ができていないのでこれから確認したいと思います。

香川 真紀

自動販売機にしがみついた波が引いたときに女の人を助けたという話を聞いて、「自分が絶対助ける」と思わないとできないことなんじゃないかなと思いました。大きい地震が起きたら高台に逃げたいです。

佐々木 柚貴

震災がどれだけ恐ろしいものだったのかがわかりました。これからの生活で、津波の恐れのある地震が来たときには家族と連絡を取って無事を確認したり、とにかく上に逃げるようにしたいと思いました。

小野 愛姫

震災の時の話を聞いて特に印象に残ったのは、貼り紙を使って安否を知らせるという手段です。これは震災でなくても有効な手段だと思うのでなるほどと思いました。これから何か起きた時、書き残すことや高いところに逃げることを忘れないようにしたいです。

金野 悠人



震災で唐丹で起きたことを知り、ふるさとへの思い、人とのつながり、防災への備え、たくさんのことを考え、学んだ震災を語り継ぐ会となりました。会の終わりに心のこもった合唱「空は今」をお二人にプレゼントしました。